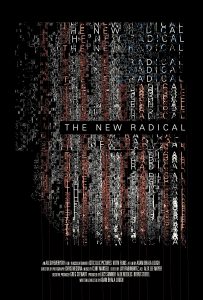
**Battle for the Soul of Bitcoin 　　by** **Adam Bhala Lough**

**原英文**\***：<https://sevenpillarsinstitute.org/battle-for-the-soul-of-bitcoin/>**

**Speechの冒頭のVimeo：**[**https://vimeo.com/241774584**](https://vimeo.com/241774584)

November 15th, 2017 テープ起こしby Kara in [Case Studies](http://sevenpillarsinstitute.org/category/case-studies), [Essays](http://sevenpillarsinstitute.org/category/essays)

半訳rev.1　20180119　齋藤旬

[](https://sevenpillarsinstitute.org/wp-content/uploads/2017/11/Battle-for-the-soul-of-bitcoin-2.jpg)

custom caption for “[*The New Radical*](http://www.indiewire.com/2017/01/the-new-radical-review-sundance-2017-mr-robot-1201773820/)”

[Adam Bhala Lough](http://adambhalalough.com/bio)はシナリオライター兼映画監督。暗号通貨とcrypto-anarchists[[1]](#footnote-1)を扱った彼のドキュメンタリー受賞作品“[*The New Radical*](http://www.indiewire.com/2017/01/the-new-radical-review-sundance-2017-mr-robot-1201773820/)” ([watch excerpt](https://vimeo.com/210515908),)が間もなくreleaseされる[[2]](#footnote-2)。この作品で彼は、Bitcoinとその本質を巡る三つ巴の闘いについてシナリオライトした。

\* This article is a transcript of a speech delivered at Indie Memphis on November 2, 2017.

\*\*\*\*以下、[Adam Bhala Lough](http://adambhalalough.com/bio)によるこのドキュメンタリー作品の紹介スピーチ\*\*\*\*

現在、Bitcoinの本質を巡る三つ巴の戦争が行われている。一つの陣営はBitcoinの真のrootsに留まろうとしている者達。即ち、the Open Source movementやthe [Cypherpunk](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B5%E3%82%A4%E3%83%95%E3%82%A1%E3%83%BC%E3%83%91%E3%83%B3%E3%82%AF) movementに触発されたprogrammersだ。彼等は次の様な信条を持っている：[security](http://sevenpillarsinstitute.org/glossary/security), independence, self-reliance, and most importantly, [freedom](http://sevenpillarsinstitute.org/glossary/freedom).

battleのもう一つの陣営はlegitimacyという言葉で定義できる。彼等はBitcoinに制度的legitimacyを付与しようとしている。彼等の目的はBitcoinをregulate（制御）すること。この陣営のmotivationはバラバラだが、みなBitcoinをdollarと同様なものと考えている。だからbankersと呼ぼう。彼等はBitcoinにsuitとネクタイを着せたがっている。そうして、地上世界のangel investorsに、Bitcoinはsafe, clean、薬物・銃・暗黒市場の如何なる組織とも繋がりが無いことを示そうとしている。

そしてthird groupの登場だ。彼等をFeds（連邦政府）と呼ぶことにしよう。法的強制力を持つ地上世界の政府当局者。Bitcoinを脅威と見る者達。Bitcoinを、money laundering、あるいは名前も個人の特定も追跡不可能にして売買を行う方法、と敵視している。そして2013年後半、Bitcoinが一年前の$13 per coinからいきなり$1,000になるや、三つ巴の闘いの火蓋が切って落とされた。

カメラを携えて、私（Adam Bhala Lough）がこの様な戦闘場面に飛び込んだのは2013年10月19日のことだった。Texas州Austinへ[Cody Wilson](https://en.wikipedia.org/wiki/Cody_Wilson) the inventor of the 3D printed gun, [The Liberator](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AA%E3%83%99%E3%83%AC%E3%83%BC%E3%82%BF%E3%83%BC_(3D%E3%83%97%E3%83%AA%E3%83%B3%E3%83%88%E9%8A%83))に会いに行ったときのこと。よもやこれが、the “21st Century Gun-Runner（銃の密造者）of the Internet” 、即ち、Bitcoinの本質を賭け生きるか死ぬかの最前線で闘う若者groupとの遭遇になるとは夢にも思わなかった。Cody Wilsonの名を最初に耳にしたのは2013年6月だった。落ちぶれたHollywood studioでの会議に向かうBeverly Hillsでの運転中、ラジオからa [young man speaking](https://www.npr.org/2013/02/25/172905444/weapons-made-with-3-d-printers-could-complicate-gun-control-laws)の声が聞こえてきた。そのときはCodyの言うことに半信半疑だった。私は銃を所持しないし、育った家にも銃は置いていなかった。でも私の性格の癖というか私の作品に共通するテーマは、極端な事例を見せてpeopleを惹きつけること。 体制に抗うpeople。他の者達が反発を感じる人々に、私自身は魅力を感じる。そんな私の好奇心が私をCody Wilsonのもとへと向かわせた。

2013年10月の雨模様の日、Austinに着いてLa Quinta Innにluggageを置いて直ぐの一時間、そんな私が銃を撃ちまくった。Day 1から内容ぎっしりだった。レッド川のほとりにある射撃場。そこにいたCodyはまるでオタク系の従業員、セレブの客に握手してチップをせびるタイプに見えた。まずBBQ安酒場に向かった。夕食後、町の外れまで車で向かい、彼がThe Liberatorを創業した小屋に着いた。世界初の射撃可能な3D printed gunが作られた小屋。期待したとおり、ガラクタの山のような小屋だった。

Day 2は全てが変わった。二日目の朝Cody宛てに、バルセロナ近郊の不法滞在地域に住むsome anarchist hackersからa Skype callがあった。彼とこれらhackersは或る計画を練り始めたという。crowdfund支援のIndiegogoを使ってこの計画を立ち上げる。それはthe Liberator創業と同じ手法だが、彼はその後このcrowdfunding platformから閉め出されてしまった。crowdfundで銃の製造を試みるのはIndiegogoのlegal policyに違反するからだ。そのSkype callは数人のyoung hackersからのもので、彼等は皆幾つもの国の特有のアクセントでそれぞれ話した。その内の一人[Vitalik Buterin](https://wired.jp/special/2017/vitalik-buterin/)は、数年後にEthereumと呼ばれる新たな暗号通貨を立ち上げ巨万の富を得ることになる。これらhackersはdryで感情に乏しく正直に言って退屈な連中だった。一人の例外を除いて。それは[Amir Taaki](https://en.wikipedia.org/wiki/Amir_Taaki)。彼は直ぐに私の目にとまった。その子どもっぽい情熱は感染力が強い。類を見ないほど生命力に満ちている。Skype callが終わるやいなや直ぐにAmirについて私はCodyを質問責めにした。CodyはGoogleをflip throughしながらAmirの写真や記事など色々な情報を見せてくれた。

表向きのAmirはBitcoinの世界で既に有名だ。Bitcoinが始まった当初から関わっていて、例の[Satoshi Nakamoto](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B5%E3%83%88%E3%82%B7%E3%83%BB%E3%83%8A%E3%82%AB%E3%83%A2%E3%83%88) --- Bitcoinを設計・実施しその最初の参考論文を著したpersonまたはpersons、は彼ではないかという噂が絶えない。AmirがSatoshiであるかどうか私は今も分からないが、兎に角彼は、Bitcoinの始まりに不可欠で、Spainの不法滞在者地域に住む魅力的な人物だということは分かった。私のドキュメンタリー作品の中にそう収めた。Codyが私のことを請け合い保証してくれたので、作品をつくる上で必要な強固な信頼関係をAmirとも結ぶことが出来た。数ヶ月間彼をfilmに収めることが出来た。これで二人の役者が揃った。不似合いな二人組。Cody Wilson：Texas出身の白人、law school drop-out、2nd amendment freedom fighter（1791年の憲法第二修正条項「武器所持の自由」支持者）。Amir Taaki：英国籍Iranian hacker、不法滞在者。風変わりな二人組で、誰も二人がcommonに何かを持つとは思わない。しかし二人は国家政府が支配する金融構造をtechnologyによってひっくり返し権力を大衆にもたらすという望みをcommonに持っている。舞台は整った。

三つ巴。即ち、一方にCrypto Anarchists[[3]](#footnote-3)、他方にBankers、三番目にFedsがBitcoinの将来を賭けて争う。このBitcoinの本質（soul）を巡る三つ巴の闘いの始まりを探れば、それは1992年、伝説のCypherpunkである [Timothy C. May](https://en.wikipedia.org/wiki/Timothy_C._May)によってCypherpunk mailing listに書きこまれたCrypto Anarchist Manifestoにたどり着く。このmailing listはとても活発なforumだった。mathematics, cryptography, computer science, politics, philosophyなど専門的discussionあり、また、personal argument（個人的見解）ありの場だった。初期memberには当時23歳のAustralian hacker [Julian Assange](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B8%E3%83%A5%E3%83%AA%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%83%BB%E3%82%A2%E3%82%B5%E3%83%B3%E3%82%B8)の名前も見つかる。The Crypto Anarchist Manifestoは正に革命兵士募集だった。それは、the online drug marketplaceであるSilk RoadをRoss Ulbrichtがprogramして生み出すのを、ピッタリ21年前から予測していた。Tim（Timothy C）がこのManifesto を書いた1992年に何があったかを更に述べて記憶にとどめよう。その年McDonald’sが中国に初めて出店した。Hurricane AndrewがFloridaを直撃した。Bill Clintonが大統領選に勝利し、AT & Tが初のVideo Phoneを＄1,499で発売した。ここで実際のThe Crypto Anarchist Manifestoを部分的に紹介して、その驚くべき未来予知能力 --- 私には他に適当な言葉が見つからない --- を見ていただこう。

1992年の[the Crypto Anarchist Manifesto](https://www.activism.net/cypherpunk/crypto-anarchy.html)の抜粋：----------------

一人の幽霊がこの近代世界をそぞろ歩きしている。その名はcrypto anarchy。Computer technologyは今、individuals and groupsが完全に匿名なまま互いに通信しinteractし合うことを可能とするabilityを実現できる段階にある。本当の名前、法律的identity等を知られることなく、二人のpersonsがmessagesをやり取りしbusinessを行いelectronic contractsを結ぶことができる。networksを介したこの様なinteractionは追跡不可能であり…勿論、国家は安全保障を引き合いにこのtechnologyを抑制または停止しようとするだろう。国家は、このtechnologyにより、薬物取引、脱税、社会崩壊が進むと懸念するからだ。確かにこれらの懸念の多くはもっともだ。crypto anarchyは、国家機密の闇市場を促し、重要書類の盗難と不正使用を増やすだろう。このanonymous computerized marketにより暗殺や強奪を生業とする者達のための忌むべき市場が形成されるだろう。様々な犯罪者集団や見知らぬ組織が、このCryptoNetの活発なusersとなっていくだろう。しかしながら、これらの理由がcrypto anarchyの拡大を止めることはない。なぜなら、活版印刷技術が中世ギルドの力を削ぎ社会権力構造を変えたが、これがjust[[4]](#footnote-4)だったのと同様に、このcryptologic methodsがcorporationsの性格に根本的変化をもたらし、経済取引への国家政府介入が用を為さなくするのもjustなことだからだ。有刺鉄線で多くの牧場や農場を囲い込むという表面的にはちっぽけな発明が、西部開拓者達に土地および土地所有権（[rights](http://sevenpillarsinstitute.org/glossary/rights)）という概念を決定的に与えたのがjustであったのと同様に、門外漢には理解しにくい数学の一分野が知的財産を囲い込む有刺鉄線を断ち切る梃子ハサミとなるのもjustなことなのだ。しかも、そうなったとしても、有刺鉄線以外、私達Cypherpunkには失うものは何もないはずだ！

さて、この25年後まで早送りしよう。その頃、UNSYSTEMとして知られるCodyとAmirを含むgroupは、[Dark Wallet](https://wired.jp/2014/05/18/dark-wallet/)の[beta](http://sevenpillarsinstitute.org/glossary/beta) versionの仕上げにかかっていた。Dark Walletとは、売手と買手を匿名にして取引を見えなくする暗号化財布のことだ。彼等は、crowd funders向けにYouTube videoをアップした。瞬く間にそれはBitcoin communityに口コミで広がっていった。そして突然振り子が振れて、Crypto Anarchistsの敵はBankersからFedsに変わった。大胆なplayでthe soul of Bitcoinを取り返しそれをrootsに戻したからだ。このDark Wallet crowdfunding videoの一口5万ドル募集が載ったIndiegogo記事は、すぐにFedsの注意を喚起した。特にFinCen – the Financial Crimes Enforcement Network, one of the US Treasury Department’s leading agencies in the fight against money launderingの注意をひいた。そして、both the IRS（内国歳入庁）and DOJ’s（司法省）cybercrime divisionsがDark Walletの査察を始めた。

ここで、Dark Wallet査察を実際に担当しているIRS agent、Tigran Gambarayan, a young Russian immigrantを、interviewしたSan Franciscoの場面を少し紹介しよう。彼は銃を腰にさしたまま、査察の詳細を語ってくれた。彼は、[Silk Road事件](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%83%AB%E3%82%AF%E3%83%AD%E3%83%BC%E3%83%89_(%E3%82%B5%E3%82%A4%E3%83%88))での法的逮捕執行も担当していて、この事件の首謀者[Ross Ulbricht](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AD%E3%82%B9%E3%83%BB%E3%82%A6%E3%83%AB%E3%83%96%E3%83%AA%E3%83%92%E3%83%88)からmillions of dollar worth of Bitcoinを回収した。Tigran GambarayanはUlbrichtも立件審査中で、自身のSecret Service badgeを使って、Ulbrichtの持つBitcoinをLuxembourgにあるBitcoin交換所で現金に換えた。これは歴史上初のBitcoinの強制回収（heist）だろう。Tigranは、Amir Taakiをカメラ監視下に置いていることを認めた。次に、Katy Hahn, head of the cybercrime unit at the Department of Justiceにinterviewするために街の反対側に車で向かった。彼女もCody and Amirを、彼等がラジオでDark Walletがa money laundering toolとして使えることを公開して以来、査察していることを認めた。Islamic State（ISIS）がどの様にDark Walletから為替を振り出しているか、当局の追跡を免れて中東のmujahideen（聖戦兵士達）にBitcoinを送金するtoolとして如何に有用であるか、説明してくれた。

そしてこの年、Post-Silk Road事件としては初の大物逮捕劇をBitcoin communityは目撃することになった。23歳で起業したBitInstantのfounder、[Charlie Shrem](https://en.wikipedia.org/wiki/Charlie_Shrem)は若くして成功した理想的なBrooklyn based Bitcoin millionaireだったが、後にmoney launderingの必要に駆られることになる。2013年にCodyと私が彼を訪ねた際は既に、彼は両親の家に自宅監禁されていた。状況は急展開していく。ShremはBitcoin起業家の中では最初に逮捕された人物となった。彼は、Silk Road事件の余波で有罪判決を受けている。この様にFedsもBankersも、Bitcoin communityに明解なsignalを送り続けている。即ち、disobedience（法律不服従）は決して容赦されない、と。皮肉なのは、2008年の金融危機（これは実際にはCrypto communityには何の害も及ぼさなかったのだが）が起きて以来、bankerは一人しか刑務所に入れられていないのに、Shremの罪状は$1 million相当のBitcoinを2年間launderingしたこと、とされたこと。多くの人が2008年の金融危機を機に、Bitcoinの重要性を訴えた。そしてこのことが、非中央集権型でsafe and secureなcrypto currency、即ち、中央銀行にcontrolされず如何なる個人（one person）やgroupにも安全性を脅かされないcrypto currencyを生み出すことに繫がった。そのさなか、Shremが逮捕された。

Shremが刑務所に送られた数ヶ月後、Amir Taakiが失踪した。私からのphone calls, my emails and my text messagesに応えなくなった。Codyも彼がどこにいるのか分からない。私が思うに、彼は金融犯罪保障の取り立て屋から夜逃げ（lam running）したのではないか。噂によればInterpolが彼をどうしても見つけたいのだそうだ。Dark Walletはまだ正式にはアプリが立ち上がっていないが、この件でどうしても彼が必要らしい。失踪は数週間から数ヶ月になり、遂に一年になった。最後に彼から<pgp>暗号化されたe-mailを受けとってから一年が過ぎた。それは、「ハイ、今、シリア。Dark Walletは死んだ。それよりもっと重要なことに取りかかっている。」というものだった。実はAmirは、[Rojava](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AD%E3%82%B8%E3%83%A3%E3%83%B4%E3%82%A1)の最前線でイスラム国（ISIS）と闘う羽目になっていた。カラシニコフを持ち戦闘服を着たクルド勢力に取り込まれて、この無国家社会を解放する手助けをしていたらしい。かつてはgreat nationだったのに西洋文化のお節介により戦争に巻き込まれてしまったクルド勢力の手伝いをしていたらしい。だからDark Wallet開発は完全に止まってしまった。その最終versionは決して完成しなくなった。この状況からは、Bitcoinの本質を巡る闘いの勝者はbankersであるかに見える。Bitcoinの時価総額は100 Billion dollarsに近づいている。それはGoldman Sachsより大きい。今日現在、one Bitcoin is worth $6421だ。私がこの作品を取り始めたときは、僅か$400位だったのに。

しかしながら、Crypto Anarchistsにも望みはある。最近、Amirは中東を去りBarcelonaの不法滞在者地域で活動を再開し、いわゆるHacklab作りをしている。a Hacklab – a live/work commune space where Crypto products can be made and developed safely.　昨日彼に私は[Signalというアプリ](http://morifuji.me/archives/4156)で暗号化したSMSを送った。そのhacker spaceで何か新しい進展があるか尋ねてみた。[Paralelni Polis](https://www.paralelnipolis.cz/)と呼ばれるgroupを彼は教えてくれた。プラハに、そのCrypto-anarchy組織がある、と。このgroupのmembersは、Czech Televisionの生放送をhackingするwebsiteを公開して、a “virtual interaction with politician’s mobile phones”を行っているという。このCryptoanarchy組織の目的は、a parallel decentralized economy, crypto-currencies, and other conditions for the development of a free society in the 21st centuryを進めることだという。[このwebsiteのstatement page](https://www.paralelnipolis.cz/o-nas/en/)にはこう書いてある。「新technologyが選択の可能性をもたらす。私達は今、The Crypto Anarchist Manifestoが明示した時代に生きている。a fast internet connection, reliable anonymity and decentralized currencyにより、長いこと失われていたfreedom as a societyをpreserveできる時代に生きている。」

© Adam Bhala Lough 2017 All Rights Reserved

1. 訳注：暗号技術により非国家領域を形成しようとする人々。 [↑](#footnote-ref-1)
2. 訳注：既にreleaseされた。[radi.al/TheNewRadical](http://radi.al/TheNewRadical) . [amazon](https://www.amazon.com/New-Radical-Cody-Wilson/dp/B077W1PTJH/ref=sr_1_1?ie=UTF8&qid=1517377412&sr=8-1&keywords=the+new+radical)、等参照方。 [↑](#footnote-ref-2)
3. 訳注：暗号技術により非国家領域を形成しようとする人々。 [↑](#footnote-ref-3)
4. 訳注：human beingにとって正しい。 [↑](#footnote-ref-4)